

【児童生徒の感染拡大の現状】

夏季休業期間中から児童生徒の新規感染者が増加している。小・中学生は主に家庭内感染、高校生は感染経路不明が多い。また、中学校及び高校では、部活動や大会においてクラスターが発生している。

【学校における感染予防の徹底の重要性】

子どもから学校内、家庭内等への感染拡大の防止、子ども一人一人の学びの保障が重要

【学校への要請】

- 集団で行う活動は避けるなど、感染症対策を講じてもお感染リスクの高い学習活動は行わない
- 時差通学、1日の授業時間の削減、高校は16時までの完全下校(特定措置区域)
- 部活動は、高体連等が主催する全道、全国に直結する大会等に出場する部活動に限定し、これ以外は休止
- 学校行事を中止、延期、縮小

【臨時休業の判断と 学校教育活動の継続】

- ①PCR検査等を受検
- ②陽性判明の段階で、迅速かつ幅広い臨時休業
- ③保健所の疫学調査結果に基づき臨時休業の範囲・期間を決定
- ④オンライン学習の実施(別添参照)

【関係機関等の連携強化】

- 市町村教委との緊密な連携
 - ・市町村教育委員会教育長会議(8月27日(金)ZOOM)
- スポーツ協会、文化団体協議会、体育連盟、文化連盟、知事部局などとの連携
 - ・部活動・クラブ活動・少年団活動等感染症対策連携会議【仮称】を設置し情報共有

【ワクチンの正しい理解】

- ワクチン接種に関する正しい理解を促進するとともに、差別やいじめなどが起こることのないよう児童生徒への指導や保護者に理解を求めるリーフレットの作成・配布

【抗原検査キットの活用】

- 抗原検査キットを活用し、感染の疑いがある生徒・教職員の早期発見・早期対応のため、寮や寄宿舎のある高校・特別支援学校を対象に実施。
- 今後、国から追加配布される小・中学校等向けキットの効果的な活用を検討

【国のモニタリング検査への参加】

- 感染拡大の予兆、早期探知のためのモニタリング検査を、小中高等に周知し積極的な登録の働きかけ(検査活用例)
 - ・見学旅行等宿泊を伴う教育活動
 - ・寮・寄宿舎生活、部活動

【今後に向けて】

家庭や関係機関等と連携を強化し、外からウイルスを持ち込ませない取組や、学校での感染拡大防止の取組を徹底し、子どもたちの命と学びを守る取組の一層の強化に努める。

臨時休業の判断と学校教育活動の継続

